

令和3年度 久御山町立こども園経営計画及び評価シート

久御山町立とうずみこども園 園長 村田 礼子

こども園の現状		保育・教育目標	経営方針				
<ul style="list-style-type: none"> ・素直で元気で明るく人なつっこいが、まだまだ甘えたい子どもも多いようである。 ・活動に取り組む時、自信のなさを感じたり直ぐに諦めたりする子どもが増えてきたように感じる。 ・子育てへの不安を感じたり、様々な問題を抱えたりしながら頑張っておられる保護者もおられ、母子双方への支援が必要だと感じている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康で意欲的にあそべる子どもに育てる。 ・人との関わりの中でやさしい心を育む。 ・様々な事に興味・関心をもてる子どもに育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子共に信頼関係を築き安心して過ごせる園づくりを目指す。 ・家庭との連携を深め、家庭の養育力の向上へとつなげる。 ・保育者一人一人が研鑽を積み、園全体の保育力が高められるよう連携を深める。 ・一人一人の子どもに応じて、適切な援助に努める。 ・久御山学園の基本方針に沿いながら、園・小中学校との連携に努める。 				
こども園経営の重点		成果と課題					
乳児保育	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を深めながら、親と子、そして保育者が共に育ち合う場となるようにする。 ・愛着関係を築き、安心安全に過ごせるようにする。 ・基本的な生活習慣の確立を目指す。 ・身に付けたい力を明確にし、年齢ごとに力が積み重ねていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の子どもたちに寄り添った温かい保育を職員が心がけていたと感じる。環境構成を工夫したり、その時期ならではの遊びを保育に取り入れ経験させることができていたと思われる。 ● 一人一人の思いに寄り添うことと子どもが自由にしていよこととの違いを理解して保育することで子どもの力や経験が積み重ねられ成長に結びつくものであり、クラス子どもたちが1年後にはどんな力を身に付けてほしいのか、見通しをもって段階的に保育をしていくことが大切である。 					
幼児保育・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を深めながら、親と子、そして保育者が共に育ち合う場となるようにする。 ・一人一人の幼児の見取りを大切にし、就学までに育てたい10の力の育成を目指す。 ・身に付けたい力を明確にし、年齢ごとに力が積み重ねていけるようにする。 ・園・小・中連携を通して相互理解を深め、交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者連携を密にして、保育者はできる限り保護者と同じ方向を向いて子どもと関わることができていたと感じる。 ● コロナ禍ということもあり異年齢、他園、小学校との交流やその季節に経験させたい遊びや活動に規模を縮小する等工夫して取組んだが、1年を通して見通しがもちにくく、子どもたちに無理をさせてしまったのではないかと反省している ● 今後は、10の力を意識した保育を目指し、見通しをもって着実に育てたい力が身に付けられるようにしていきたい。 					
評価領域	重点目標(観点別)	具体的方策			評価		
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 ・明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活やさまざまな体験の中で子どもたちを援助しながら自立を促す。 ・個々に合わせた指導方法を探りながら全職員が思いを共有し保育を進める。 ・食育を中心に、基本的な生活習慣等の確立の大切さを言葉やプリントで保護者に伝える。 			3	4	4
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人と親しみ関わりを深め信頼感をもつ。 ・社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の内面を理解して接し、こども園で安定して自己発揮できるようにする。 ・保育者自身が手本となり、園生活の中で社会生活での望ましい習慣や態度を身に付けさせる。 ・保育者が積極的に保護者に関わりながら、望ましい習慣や態度を示す。 			3	3	4
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に親しみ、さまざまな事から興味や関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者自身が感性を磨き、様々な事象等に気付いて知らせたり、子どもの思いに寄り添えるようにする。 ・身近なものや遊具に興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊べるよう援助する。 			4	4	4
言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 ・経験や思いを伝え合う喜びを感じる。 ・絵本や物語等に親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを十分に受け止めたり認めたりして、心のこもった受け応えを心がける。 ・絵本や童話を読み聞かせる機会を大切にし、保育者や友だちと心を通わせるようにする。 ・様々な機会をとらえ、保護者に子どもとの会話や絵本の読み聞かせの大切さを知らせる。 			3	3	4

表 現	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 ・感じたこと考えたことを様々に表現し楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな場面で感じたことや考えたことを表出できる自由な雰囲気大切に。 ・その子なりの表現を受け入れ認め、保護者にも伝えて思いを共有できるようにする。 ・様々な表現を楽しめるような素材・用具・玩具等を工夫していく。 	3	3	4
年間評価	<p style="text-align: center;">1 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の実態を丁寧に把握し、子ども・保護者個々に応じて対応をしていきたい。 ・コロナ禍に対応し、行事を各クラスで行ったり、密を避けて遊べるように工夫してきたが、今後も様々な経験が積めるように更に工夫を重ねていく。 	<p style="text-align: center;">2 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で制限されることが多く、少しでもその時期にあった活動を経験させるため知恵を出し合うことが多かった。 ・効果的な保育のために、子どもをどのように育てたいのかを明確にし、保護者と共通理解していくことが大切だと感じた。 	<p style="text-align: center;">3 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染者が増え、学級閉鎖や保育協力などで欠席者が多かった。 ・感染防止策も今まで以上に徹底する中で、更に子どもたちの遊びを保障をしていくため、withコロナとして今後の保育の在り方を検討していく必要がある。 		